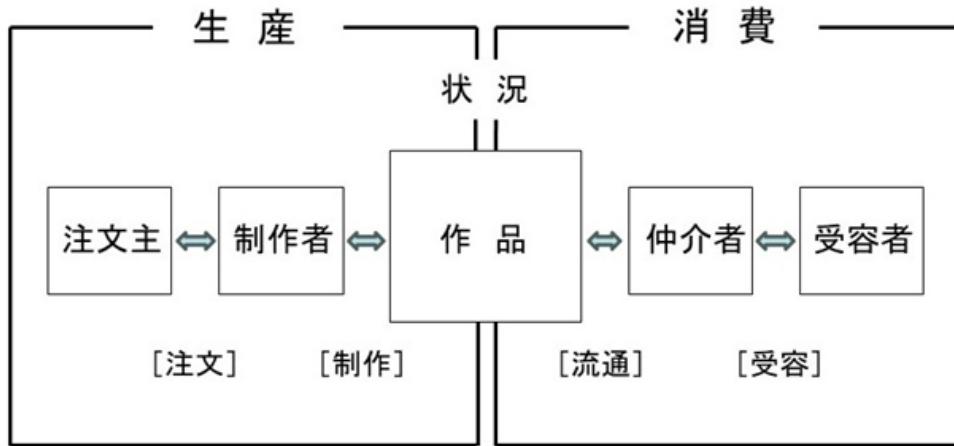


令和6年度 事業報告書
(自令和6年4月1日至令和7年3月31日)

公益目的事業Ⅰ

一般の受容者をはじめとして、制作者や、研究者・学芸員・ギャラリスト等の文化仲介者の活動を支援することによって、美術を中心とした視覚文化の振興を図るために、次の事業を行った。



視覚文化の構造

1. 機関誌『須田記念 視覚の現場』の発行

機関誌『須田記念 視覚の現場』第11号と第12号を発行し、全国の図書館や大学図書館、美術愛好者などに配布するとともに、研究者や美術館関係者などにネットで配信することをはじめた。

2. 視覚文化に関する調査研究

令和5年度の視覚文化研究会で行った「像の論理」と「日本画のトポグラフィー」をテーマとする調査研究について、その成果を『美術フォーラム21』第49号と第50号として刊行し、フォーラム会員に無料で配布した。また、従来からの定期購読者のうち、図書館や美術館など、日販やトーハンなどの取次を通して購読していたものについては、醍醐書房に販売を委託した。また、令和6年度の視覚文化研究会で「美的性質」と「交友の美術史」をテーマとする調査研究を行い、令和7年度の『美術フォーラム21』に成果を発表する準備を行った。

3. 視覚文化連続講座の開講

「視覚文化の不易流行」という統一テーマのもとで、各界の専門家8名による連続講座を開講した。

4. 視覚文化ワークショップの開催

財団が委嘱する研究員をファシリテーター／パネリスト／講演者として、制作者や仲介者が領域横断的に意見を交換するワークショップを3回開催し、ハイブリッド方式で公開した。

5. 展覧会の支援

各地の美術館・博物館等の学芸員やギャラリスト、メディエーター等が企画するコレクション等を中心とする展覧会に対して、開催経費の一部を支援するために、6月から7月にかけて公募を行い、令和8年度に開催予定の展覧会1件を採択した。

6. 展覧会の企画

本財団が碧南市藤井達吉現代美術館、大分市美術館、西宮市大谷記念美術館、三之瀬御本陣芸術文化館／蘭島閣美術館、世田谷美術館と企画した「須田国太郎の芸術——3つのまなざし」展の巡回（令和5年10月28日から令和6年9月8日まで）に協力した。また、今後の展覧会企画に向けて、須田作品の調査を行った。